

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・米国、豪州等で下方修正も、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正され、史上最高の見込み。

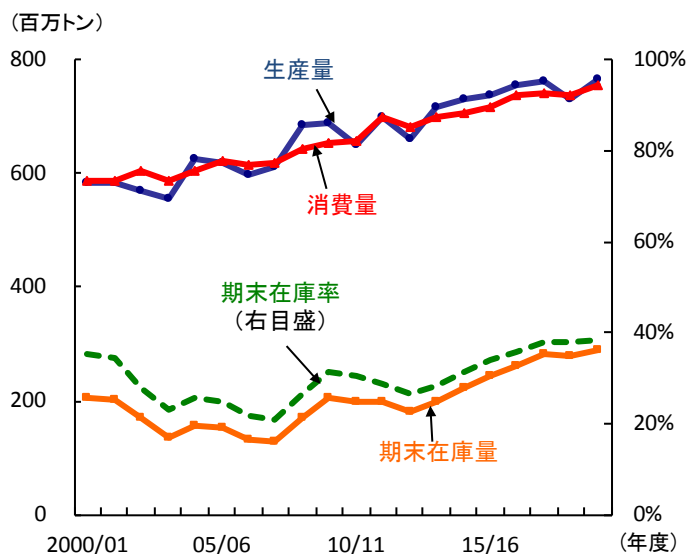
消費量 前年度比 前月比

- ・米国等で下方修正も、前月からわずかに上方修正され、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・豪州等で下方修正も、EU 等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」（2019.11.8）をもとに農林水産省にて作成

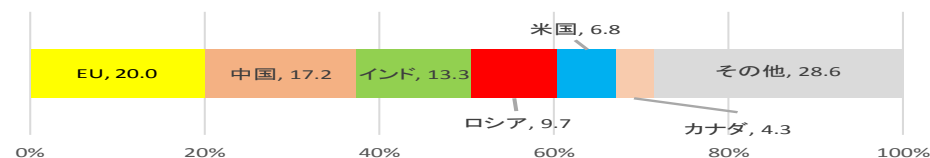
◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

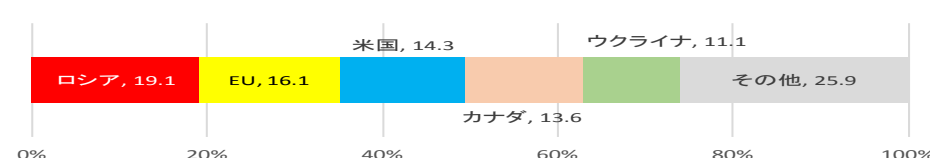
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	762.3	731.3	765.6	0.3	4.7
消費量	742.3	736.1	755.2	0.1	2.6
うち飼料用	146.5	139.8	148.5	-	6.2
輸出量	182.5	172.9	180.7	1.0	4.5
輸入量	180.0	169.9	176.5	0.8	3.9
期末在庫量	282.7	277.9	288.3	0.5	3.7
期末在庫率	38.1%	37.8%	38.2%	0.1	0.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 November 2019)

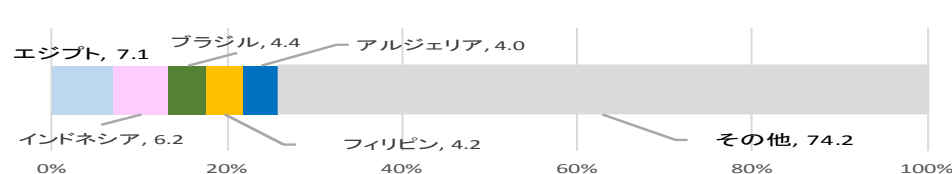
○ 2019/20 年度の世界の小麦の生産量(765.6 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸出量(180.7 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸入量(176.5 百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2019/20年度の生産量は、米国北部産地で春小麦の収穫時の降雨や大雪、低温による収穫面積の減少から、前月予測から1.1百万トン下方修正され、52.3百万トンとなる見込み。内訳は、冬小麦は前月からの変更はなく35.5百万トン(対前年度比10.1%増)、春小麦、デュラム小麦は下方修正され、それぞれの生産量は、15.3百万トン(同3.7%減)、1.5百万トン(同31.1%減)の見込み。品種別には、ハードレッドスプリング、ホワイト小麦、デュラム小麦がノースダコタ州、モンタナ州等で下方修正された。

また、USDA「Crop Progress」(2019.11.18)によれば、2020/21年度の冬小麦は、11月17日現在、発芽進捗率が83%と前年度同期80%を上回っているものの、5年平均86%を下回っている。作柄評価は、良～やや良が52ポイントと前週の54ポイント、前年の56ポイントを下回っている。

【貿易情報・その他】輸出量は、前月予測からの変更はなく、25.9百万トンの見込み。本年度は、アルゼンチン、豪州等の輸出余力の低下で、前年度に比べ米国に価格競争力と輸出余力があるため、米国の小麦輸出は好調な出足となった。

しかしながら、ロシアの輸出が年間を通して持続する可能性が高いこと等から、米国の好調な輸出が続くとは見通せない。また、ブラジルのメルコスール諸国以外を対象とした75万トンの小麦の関税割当の導入は、米国にとって好材料と見られるが、カナダ、ロシアがこのシェアを占める可能性が高いとの見方もある。

米国の品種別輸出価格は、ハーベストプレッシャーの影響が弱まり、とうもろこしと大豆価格の上昇につれて10月はほとんどの品種の価格が上昇した。ハードレッドウインター(HRW)は6ドルトン、ソフトレッドウインター(SRW)は9ドルトン上昇して、それぞれ215ドルトン、226ドルトンとなった。また、ソフトホワイト(SWW)は3ドルトン上昇し、231ドルトンとなった。一方、収穫遅れで上昇したハードレッドスプリング(HRS)は5ドルトン低下して272ドルトンとなったが、高止まりしている。

小麦—米国

(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	47.4	51.3	52.3	▲ 1.1	1.9
消費量	29.3	30.0	31.5	▲ 0.3	4.8
うち飼料用	1.3	2.4	3.8	-	56.1
輸 出 量	24.7	25.5	25.9	-	1.5
輸 入 量	4.3	3.7	3.3	-	▲ 10.9
期末在庫量	29.9	29.4	27.6	▲ 0.8	▲ 6.1
期末在庫率	55.5%	53.0%	48.1%	▲ 1.1	▲ 4.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.20	16.03	15.04	▲ 0.36	▲ 6.2
単収(t/ha)	3.12	3.20	3.47	-	8.4

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)

図 米国産小麦の品種別輸出価格の推移

(ドル/トン)



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2019.11.8)

< カナダ >

【生育・生産状況】主要産地の平原三州では、9月下旬以降の断続的な大雨や積雪の寒冷湿潤型の天候により、収穫が遅れている。

各州政府によれば、春小麦の収穫進捗率はサスカチュワン州で94%(11.21現在)、マニトバ州で98%(11.12現在)、アルバータ州で90%(11.12現在)となっている。各州2%~10%の春小麦が11月中旬現在で未収穫であるため、その品質劣化が懸念されている。

一方、カナダ農務農産食品省(AAFC)の10月報告によれば、生産量は、前月予測から変更はなく32.5百万トン。なお、この報告では9月以降の寒冷湿潤型の天候の影響は反映されていない。カナダ統計局の12月6日付けの調査結果を待って更新されるとみられる。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、輸出量は、普通小麦が19.0百万トン、デュラム小麦が4.7百万トンの合計23.7百万トンの見込み。

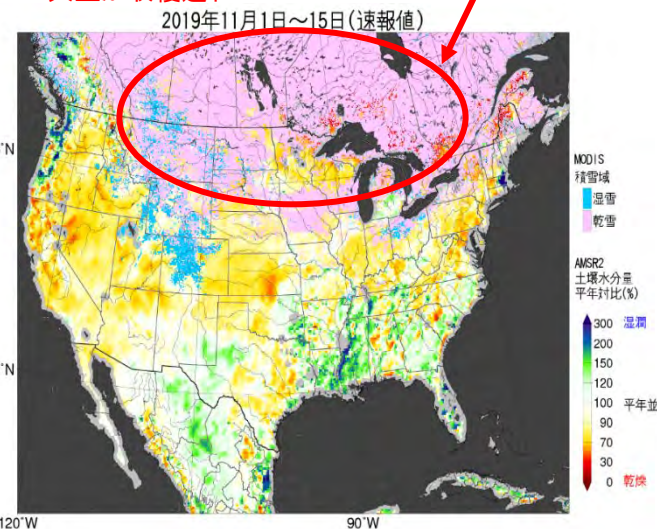
小麦－カナダ
(春小麦を主に栽培)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はAAFC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	30.4	32.2	33.0 (32.5)	-	2.5	
消費量	9.3	8.8	9.5 (8.8)	-	7.5	
うち飼料用	4.4	3.9	4.5 (4.3)	-	14.2	
輸出量	22.0	24.4	24.5 (23.7)	-	0.4	
輸入量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	▲6.2	
期末在庫量	6.5	5.9	5.4 (6.0)	-	▲9.3	
期末在庫率	20.7%	17.8%	15.8% (18.4%)	-	▲2.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	8.98	9.88	9.70 (9.78)	-	▲1.8	
単収(t/ha)	3.38	3.26	3.40 (3.32)	-	4.3	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)、
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(19 November 2019)

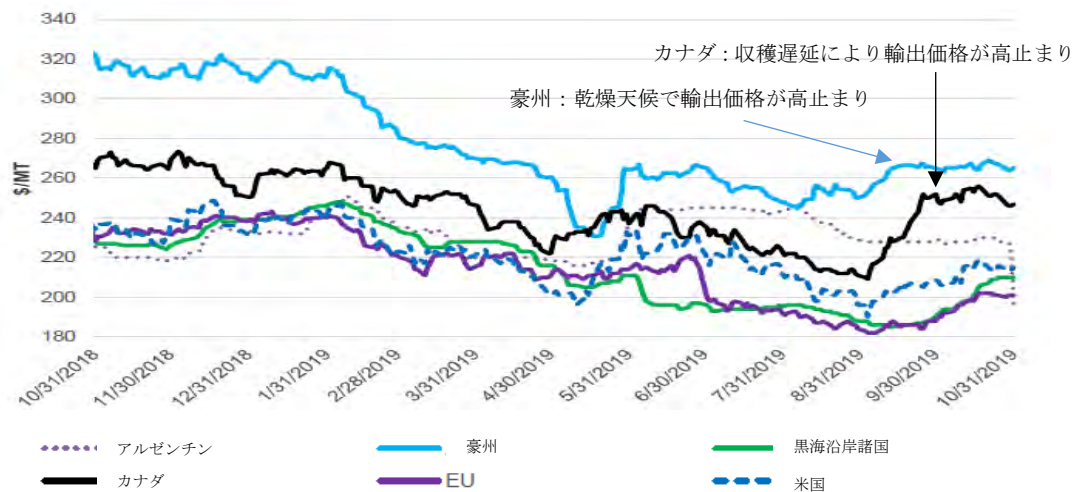
図：北米の土壌水分の平年対比

米国北部からカナダにかけて積雪等により春小麦、大豆が収穫遅れ



出典：JAXA JASMAI データ

図：小麦主要輸出国の輸出価格の推移



資料：USDA「Grain：World Markets and Trade」(2019.11.8)

< 中国 >

【生育・生産状況】2019/20年度の小麦の収穫は終了した。中国糧油情報センターによれば、生産量予測は、前月から変更はなく、冬小麦127.0百万トン、春小麦7.0百万トンの134.0百万トンの見込み。

中国中央気象台によれば、2020/21年度の冬小麦は、河北省、甘粛省、陝西省等で第3新葉期から分けつ期、江蘇省、安徽省、河南省等では作付期から発芽期を迎えている。10月28日現在、全国の冬小麦の播種進捗率は前年度同期並の76.4%である。

また、全国の冬小麦の一、二類(※)の比率はそれぞれ24%、74%となっている。

【貿易情報・その他】中国海関統計によれば、2019年1月から2019年9月までの小麦の輸入量は、205.8万トンとなっており、内訳はカナダが145.5万トン、カザフスタン30.1万トン、フランス13.1万トン等。

< EU >

【生育・生産状況】

USDAによれば、2019/20年度の実産量予測は、フランス、英国、スウェーデンで単収が上方修正されたことから、前月より1.0百万トン上方修正され、153.0百万トンの見込み。

EU委員会によれば、9月末時点で2019/20年度の小麦の収穫はほぼ全域で終了。生産量予測は、前月より2.0百万トン上方修正され154.8百万トンの見込み。

同委員会によれば、2020/21年度の冬小麦は、10月末現在、スペイン、ポルトガル等の南部を除くEU全域で作付期を迎えているが、英国、ドイツ北部、デンマーク等では多雨の影響で、ルーマニア、ブルガリア等では乾燥の影響で作付けに遅れが生じている。

特に、英国では、長引く降雨による作付けの遅れから、生産量が減少する可能性がある。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の実輸出量は、ますます輸出価格の競争力が増加したことから、前月から生産量の上方修正量とほぼ同量の1.0百万トン上方修正され、29.0百万トンとなる見込み。

小麦—中国（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	131.4	132.0 (132.0)	-	0.4
消費量	121.0	125.0	128.0 (128.7)	-	2.4
うち飼料用	17.5	20.0	21.0 (20.8)	-	5.0
輸 出 量	1.0	1.0	1.3 (1.2)	-	28.7
輸 入 量	3.9	3.2	3.2 (3.6)	-	1.6
期末在庫量	131.2	139.8	145.7 (127.1)	-	4.2
期末在庫率	107.5%	110.9%	112.7% (97.9%)	-	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.51	24.27	24.10 (24.00)	-	▲ 0.7
単収(t/ha)	5.48	5.42	5.48 (5.50)	-	1.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)
IGC 「Grain Market Report」(24 October 2019)

※ 一類苗：生育が正常な苗 二類苗：通常の苗よりやや小さい苗
三類苗：病気の苗、弱い苗

小麦—EU

(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	151.1	136.9	153.0 (154.8)	1.0	11.8
消費量	130.4	123.2	127.5 (127.6)	-	3.5
うち飼料用	58.0	52.0	56.0 (53.4)	-	7.7
輸 出 量	23.4	23.3	29.0 (26.9)	1.0	24.4
輸 入 量	5.8	5.8	5.5 (5.4)	-	▲ 4.5
期末在庫量	13.9	10.0	12.0 (19.9)	-	20.0
期末在庫率	9.0%	6.8%	7.7% (12.9%)	▲ 0.0	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.16	25.58	26.08 (26.21)	0.02	2.0
単収(t/ha)	5.78	5.35	5.87 (5.9)	0.04	9.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」(8 November 2019)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(31 October 2019)

< ロシア >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の収穫はほぼ終了。生育期を通して天候がおおむね良好であったため、同年度の生産予測は、74.0百万トンと前年度を3.2%上回る見込み。前月からの変更は、収穫面積の増加と単収の上昇により、冬小麦が1.0百万トン上方修正、春小麦も0.5百万トン上方修正され、それぞれ55.0百万トン、19.0百万トンの見込み。

なお、ロシア農業省によれば、11月15日現在、小麦の収穫進捗率は98.1%に達し、同日までの収穫量は77.7百万トン(前年同日は73.4百万トン)、単収は、2.82トン/ヘクタール(同2.79トン/ヘクタール)となった。

また、USDA農務官報告によれば、品質は2018/19年度を上回り、長期的な傾向でも品質は確実に上昇している。ロシア農業省によれば、食用の小麦(1~4等)は84.6%と前年度の74%を上回り、一方で飼料用小麦(5等)は15.4%と前年度の25.7%を下回っている。ロシア連邦穀物品質センターによれば、南部の主産地のクラスノダール産はほぼ4等が主であり、平均タンパク質は12.4%。

ロシア気象センターによれば、10月時点で、2020/21年度の冬小麦は、ロシア・ヨーロッパ部の北西、中央、南、北カフカス各連邦管区では、発芽から分けつ期を迎え、概ね良好な作柄である。また、ロシア・アジア部のウラル連邦管区、シベリア連邦管区西部では、平年より5~10日遅く休眠期に入り、作柄は良好。シベリア連邦管区東部、極東連邦管区では5~10日早く休眠期に入った。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、十分な輸出余力があるため、前月より0.5百万トン上方修正され34.5百万トンとなる見込み。最近、サウジアラビアがロシア産小麦にも市場を開放したことから、ロシアが既に大きなシェアを持っている中東や北アフリカでの輸出量のシェアがさらに拡大する可能性がある。

ロシア農業省によれば、ベトナムがロシアに検疫検査の監督強化を求める条件で、10月29日付けで、ロシア産小麦のベトナム向け輸出再開に合意した(P3注目情報参照)

小麦ーロシア

(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	85.2	71.7	74.0 (74.5)	1.5	3.2
消費量	43.0	40.5	39.5 (40.6)	-	▲ 2.5
うち飼料用	20.0	18.0	17.0 (17.4)	-	▲ 5.6
輸 出 量	41.4	35.8	34.5 (34.2)	0.5	▲ 3.7
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.3)	-	6.7
期末在庫量	12.0	7.8	8.3 (10.0)	0.6	6.0
期末在庫率	14.2%	10.2%	11.2% (13.4%)	0.7	1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.37	26.34	27.20 (27.30)	0.20	3.3
単収(t/ha)	3.11	2.72	2.72 (2.73)	0.03	-

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)
IGC 「Grain Market Report」(24 October 2019)

写真：順調に生育する冬小麦

南連邦管区 クラスノダール地方(2019年10月)



<豪州>

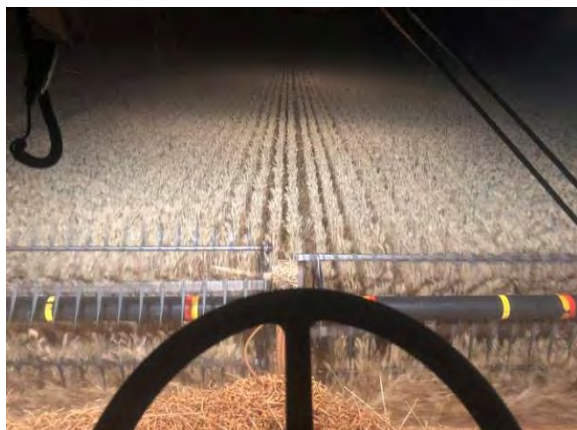
【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度は、ウエスタンオーストラリア州(WA)やサウスオーストラリア州(SA)等では、作付期に適時な降雨に恵まれたが、その後、乾燥傾向となり作柄見通しが徐々に悪化した。ニューサウスウェールズ州(NSW州)北部、クイーンズランド州(QLD州)南東部では作付期から降水量の不足が継続し、作柄見通しが不良である。

WA州南部、SA州では9月に降雨があったものの、豪州全体で成熟期の10月の降雨が少なかったことから作柄見通しが悪化した。

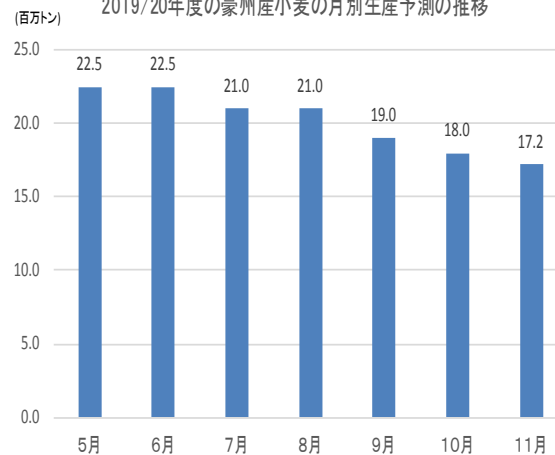
2019/20年度の生産量は、前月から0.8百万トン下方修正され、干ばつの影響のあった前年度(17.3百万トン)を下回る、2007/08年度以来12年ぶりの低水準の17.2百万トンの見込み。10月の乾燥天候により、前月より収穫面積、単収が下方修正されたことが要因。

【貿易情報・その他】輸出量は、生産量予測の下方修正により、前月予測より0.5百万トン下方修正され9.0百万トンの見込み。なお、干ばつ状況悪化の影響で豪州の輸出価格は9月に再び上昇したのち、10月は高止まりしている(P3グラフ参照)。

夜間に収穫を行う小麦圃場(NSW州)(10月30日撮影)



2019/20年度の豪州産小麦の月別生産予測の推移



資料：USDA「PS&D」(2019.11.8)をもとに農林水産省で作成。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

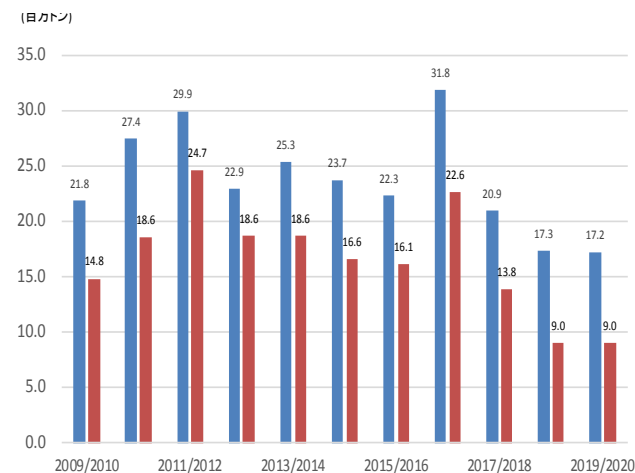
(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.9	17.3	17.2 (17.0)	▲ 0.8	▲ 0.6
消費量	7.5	9.2	8.5 (8.4)	-	▲ 7.6
うち飼料用	4.0	5.7	5.0 (4.8)	-	▲ 12.3
輸出量	13.9	9.0	9.0 (9.5)	▲ 0.5	▲ 0.1
輸入量	0.2	0.4	0.2 (0.4)	-	▲ 58.3
期末在庫量	5.5	5.0	4.8 (4.5)	▲ 0.3	▲ 3.0
期末在庫率	25.8%	27.2%	27.5% (25.4%)	▲ 1.0	0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	10.92	10.16	10.60 (10.40)	▲ 0.10	4.3
単収(t/ha)	1.92	1.70	1.62 (1.63)	▲ 0.06	▲ 4.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)
IGC 「Grain Market Report」(24 October 2019)

最近10年間の豪州の小麦生産量・輸出量の推移

2019/20年度の生産量は10年平均の24.3百万トンを下回る17.2百万トン、輸出量も同17.4百万トンを下回り9.0百万トン。また、2019/20年の生産予測は5月の22.5百万トンから5.3百万トン下方修正され17.2百万トンの見込み。



2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

- ・ロシアで上方修正も、米国、メキシコ等で下方修正により、前月から下方修正された。

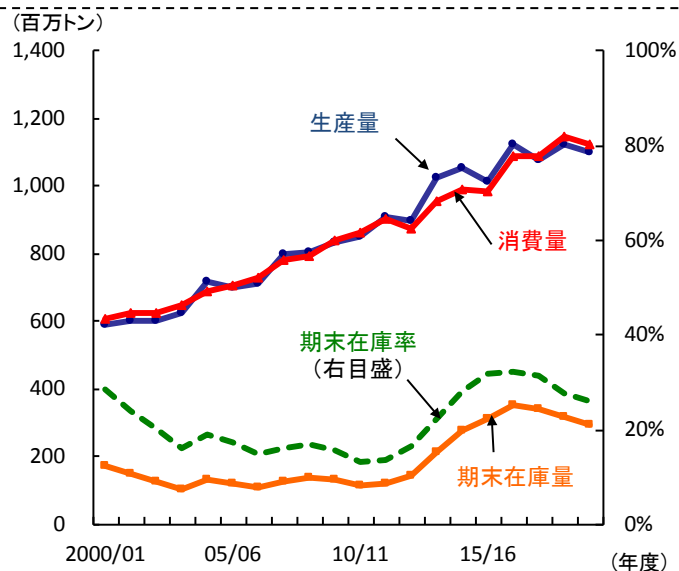
消費量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

- ・米国、ブラジル等で下方修正も、日本等で上方修正により、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

- ・米国等で下方修正も、ブラジル等で上方修正により、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2019.11.8)をもとに農林水産省にて作成

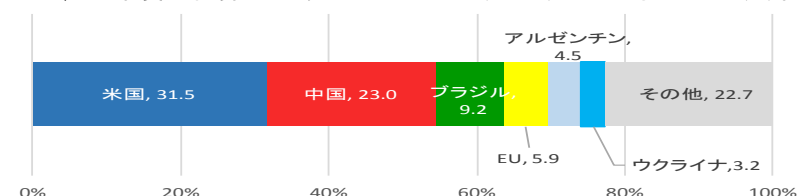
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

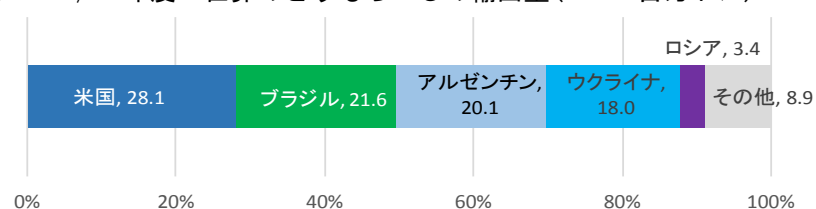
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,080.0	1,125.0	1,102.2	▲ 1.8	▲ 2.0
消費量	1,090.5	1,146.7	1,126.3	0.8	▲ 1.8
うち飼料用	672.4	704.8	694.9	1.0	▲ 1.4
輸出量	148.2	180.3	167.1	0.5	▲ 7.3
輸入量	150.0	162.0	167.4	1.3	3.4
期末在庫量	341.7	320.1	296.0	▲ 6.6	▲ 7.5
期末在庫率	31.3%	27.9%	26.3%	▲ 0.6	▲ 1.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 November 2019)

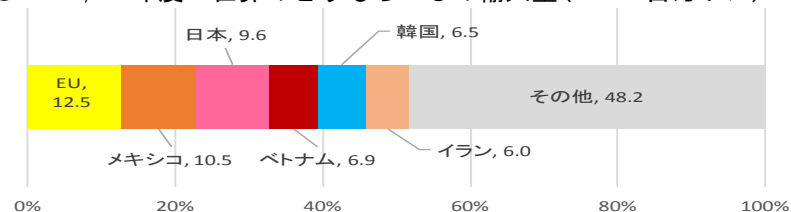
○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの生産量 (1102.2 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸出量 (167.1 百万トン)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸入量 (167.4 百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】3月から6月までの降雨過多の影響により、作付け、生育に遅れが生じた。米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2019.11.18)によれば、11月17日時点の収穫進捗率は76%と、過去5年平均(92%)より遅れている。

生産量は、単収が下方修正されたことにより、前月予測から3.0百万トン下方修正され、前年度比5.3%減の347.0百万トンの見通し。

【需要動向】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、飼料用、エタノール用で下方修正され、前年度比2.8%減の306.5百万トン。期末在庫量は0.5百万トン下方修正され、48.5百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、本年9月以降の輸出ペースの落ち込みから、前月から1.3百万トン下方修正され、前年度比10.4%減の47.0百万トンの見込み。背景にブラジル産新穀の冬とうもろこしの輸出増の影響があるとみられる。なお、輸出検証高(2019年1月3日~10月31日)は、32.8百万トン(右表参照)。

とうもろこし-米国

(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	371.1	366.3	347.0	▲ 3.0	▲ 5.3
消費量	314.0	315.2	306.5	▲ 1.3	▲ 2.8
うち飼料用	134.7	142.7	134.0	▲ 0.6	▲ 6.1
エタノール用等	142.4	136.6	136.5	▲ 0.6	▲ 0.0
輸出入量	61.9	52.5	47.0	▲ 1.3	▲ 10.4
輸入量	0.9	0.7	1.3	-	78.9
期末在庫量	54.4	53.7	48.5	▲ 0.5	▲ 9.6
期末在庫率	14.5%	14.6%	13.7%	▲ 0.0	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.48	33.08	33.11	-	0.1
単収(t/ha)	11.08	11.07	10.48	▲ 0.09	▲ 5.3

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

表: 米国のとうもろこし輸出先国別輸出量 (輸出検証高) (万トン)

	国名	輸出検証高		
		2019年累計	9月	10月
1	メキシコ	1057.3	80.4	76.7
2	日本	952.3	31.0	26.1
3	コロンビア	315.9	6.0	24.8
	その他	951.8	37.3	45.1
	計	3,277.3	154.7	172.7

注1: 10月の輸出検証高は、10月10,17,24日及び31日の計
注2: 累積輸出検証高は、2019年1月3日~10月31日の合計
出典:USDA Federal Grain Inspection Service

< ブラジル >

【生育・生産状況】10月以降、夏とうもろこしの作付けが開始された。USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測から変更はなく101.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社（Conab）月例報告（2019.11.13）によれば、現在作付けされている2019/20年度の夏とうもろこしは、作付面積の増加により、生産量は前年度より2.4%増の26.3百万トンの見込み。なお、大豆収穫後に作付けする冬とうもろこしの生産量は72.1百万トンが見込まれ、合計で98.4百万トンと前年度(100.0百万トン)より1.7%減少する見込み。

11月上～中旬の降雨により、発芽や生育に必要な水分が供給されたため、夏とうもろこしの作付進捗率は、パラナ州では99%(11月11日時点)となりほぼ終了。リオグランデ・ド・スル州では81%(11月14日時点)と過去5年平均(82%)並である。

(P.17大豆—ブラジルのクロップカレンダー参照)。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、飼料用を除く需要の下方修正により、前月予測から1.0百万トン下方修正され、66.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、最近の高い輸出ペースを反映し2.0百万トン上方修正され36.0百万トンが見込まれ、輸出シェアは世界第2位を維持している。(図参照)。

ブラジル貿易統計によると、10月の輸出量は6.1百万トンで、2019年1～10月までの輸出量累計は、34.7百万トンとなり、前年同期の2.2倍となっている。34.7百万トンの内訳は、1位がイランで4.8百万トン、2位が日本で4.7百万トン、3位がベトナムで3.3百万トンとなっている。

とうもろこし—ブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

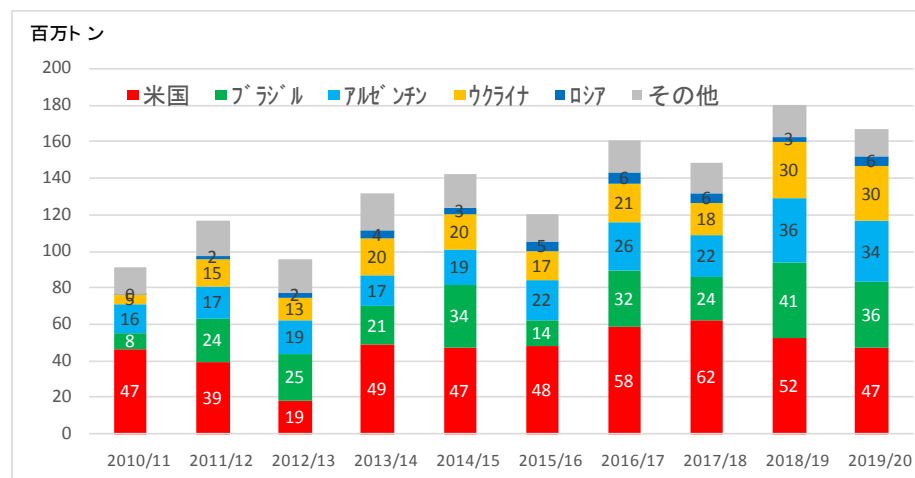
(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	82.0	101.0	101.0 (101.0)	-	-
消費量	63.5	65.5	66.0 (67.7)	▲ 1.0	0.8
うち飼料用	54.0	55.5	56.0 (53.5)	-	0.9
輸 出 量	24.2	41.0	36.0 (35.5)	2.0	▲ 12.2
輸 入 量	0.9	1.3	1.0 (0.6)	-	▲ 23.1
期末在庫量	9.3	5.1	5.1 (5.2)	▲ 3.2	-
期末在庫率	10.6%	4.8%	5.0% (5.1%)	▲ 0.0	0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.60	17.50	18.10 (17.80)	-	3.4
単収(t/ha)	4.94	5.77	5.58 (5.67)	-	▲ 3.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)
IGC「Grain Market Report」(24 October 2019)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移

近年、米国のシェアが低下、ブラジルがシェアを拡大



資料：USDA「PS&D」(2019.11.8)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】降雨不足により遅れていた作付けが、11月上旬の北東部で降雨があり進展した。ブエノスアイレス穀物取引所の週報(2019.11.21)によれば、作付進捗率は45.7%となっている。輸出税の引き上げ懸念により栽培に費用のかかるとうもろこしから大豆に作付けがシフトしたため、作付予定面積は前週の6.4百万ヘクタールから下方修正され、前年度並の6.3百万ヘクタールの見通し。

なお、USDAによれば、現在作付中の2019/20年度の生産量は、前月予測から変更はなく50.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度比6.9%減の33.5百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2019年9月の輸出量は3.3百万トンで、1～9月の累計では28.2百万トンとなり、前年同期の1.5倍となっている。内訳は、1位がベトナムで6.1百万トン、2位がアルジェリアで2.8百万トン、3位がエジプトで2.5百万トンである。

< 中国 >

【生育・生産状況】とうもろこしは、11月時点で概ね収穫が終了した。USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測から変更はなく、大豆への作付けの転換により作付面積が減少し、前年度より1.3%減の254.0百万トンの見込み。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測から変更はなく277.0百万トンの見込み。飼料用需要は減少も、飼料用以外の用途向けが増加。USDA

「Grain:World Markets and Trade」(2019.11.8)によれば、中国政府がとうもろこし加工企業へ輸送費用の補助や付加価値税の還付等の助成を行ったことから、コーンスターチやその副産物の生産・輸出量が増加している。

【貿易情報・その他】米中通商摩擦の影響から、中国財政部によれば、2018年7月から米国産とうもろこし輸入に賦課していた25%の関税に加え、2019年12月15日以降、追加関税(10%)を賦課する見通し。

中国の貿易統計によれば、2019年9月の輸入量は14万トンで、うち6万トンが米国産。なお、1～9月の累計輸入量は3.9百万トンで、内訳は、ウクライナ産が3.5百万トン(91%)、米国産が0.2百万トン(5%)である。

とうもろこし—アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.0	51.0	50.0 (53.1)	-	▲ 2.0
消費量	12.4	13.8	15.0 (22.4)	-	8.7
うち飼料用	8.5	9.7	10.3 (17.5)	-	6.2
輸 出 量	22.5	36.0	33.5 (31.5)	-	▲ 6.9
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.4	3.6	5.1 (5.3)	▲ 0.5	41.8
期末在庫率	6.9%	7.2%	10.6% (9.8%)	▲ 1.0%	3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.20	6.10	6.10 (7.10)	-	-
単収(t/ha)	6.15	8.36	8.20 (7.47)	-	▲ 1.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)
IGC「Grain Market Report」(24 October 2019)

とうもろこし—中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	259.1	257.3	254.0 (255.4)	-	▲ 1.3
消費量	263.0	273.0	277.0 (281.6)	-	1.5
うち飼料用	187.0	190.0	188.0 (175.0)	-	▲ 1.1
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	3.5	4.5	7.0 (5.0)	-	56.3
期末在庫量	222.5	211.3	195.3 (183.2)	▲ 0.5	▲ 7.6
期末在庫率	84.6%	77.4%	70.5% (65.0%)	▲ 0.0	▲ 6.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	42.40	42.13	41.00 (41.53)	-	▲ 2.7
単収(t/ha)	6.11	6.11	6.20 (6.15)	-	1.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)
IGC「Grain Market Report」(24 October 2019)

3 米

(1) 国際的な米需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・インド等で上方修正も、インドネシア等で下方修正され、前月からわずかに下方修正された。

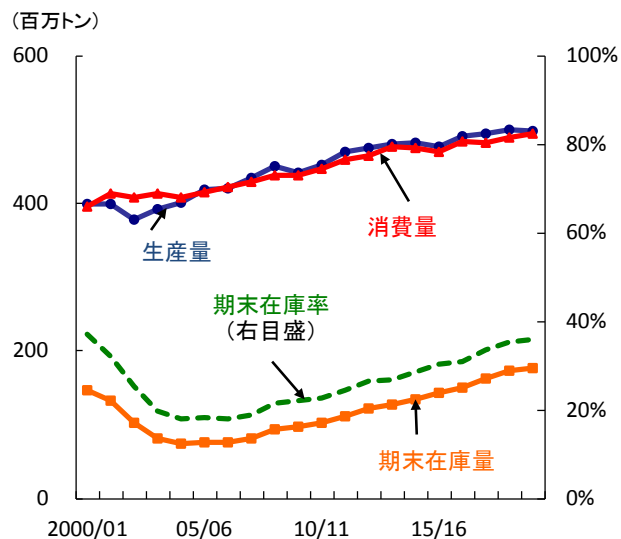
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・フィリピン、ベトナム等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出品 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・インド、ベトナム等で上方修正も、タイ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料 : USDA 「PS&D」 (2019. 11. 8) をもとに農林水産省にて作成

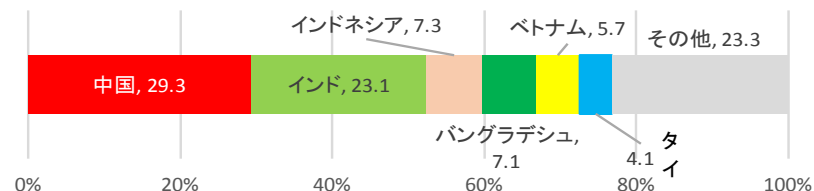
◎世界の米需給

(単位:百万精米トン)

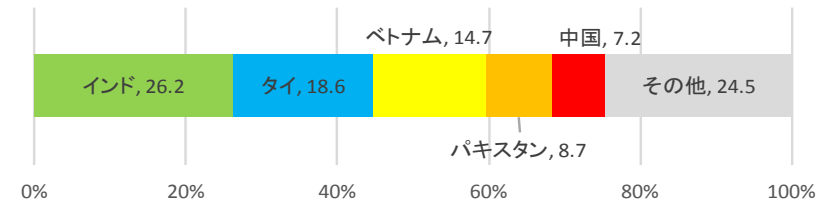
年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	494.9	499.3	497.8	▲ 0.0	▲ 0.3
消費量	482.2	488.6	494.0	▲ 0.5	1.1
輸出品	47.1	44.2	45.8	▲ 0.1	3.7
輸入量	46.7	43.7	43.4	▲ 0.5	▲ 0.8
期末在庫量	162.6	173.3	177.0	1.9	2.2
期末在庫率	33.7%	35.5%	35.8%	0.4	0.4

資料 : USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (8 November 2019)

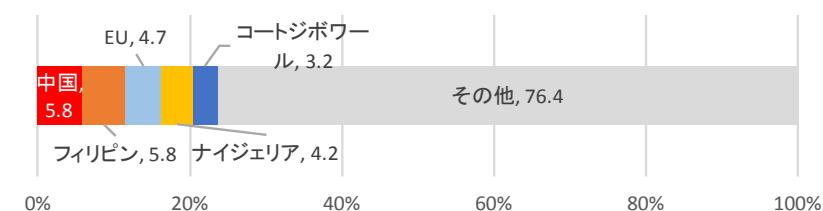
○ 2019/20 年度 世界の米の生産量 (497.8 百万トン) (単位 : %)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸出品 (45.8 百万トン)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸入量 (43.4 百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生産動向】4月から6月に断続的に続いた降雨により南部の長粒種産地で作付け、生育に遅れが生じた。しかし、その後の良好な天候により順調に収穫が進み、11月中旬現在、収穫は全米でほぼ終了した。

USDAによれば、生産量は、カリフォルニア州、ルイジアナ州で単収が下方修正されたことから、前月予測から中・短粒種、長粒種ともにわずかに下方修正され、対前年度比16.2%減の6.0百万精米トンの見込み。このうち、中・短粒種の実産量は2.8百万もみトンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、対前年度1.7%増の3.0百万精米トンの見込み。輸入量は、対前年度2.2%増の0.9百万精米トンの見込み。

< インド >

【生育・生産動向】現地コンサルタントによると、インド西部のカリフ米は収穫が終了し、小麦の播種が始まった。その他の地域では、生殖生長期後半から収穫期である。モンスーン期の降雨の遅れにより全生産の9割を占めるカリフ米の作付けが多少遅れていたが、7月から9月にかけてインド全域で理想的な降雨が継続したことから、順調に生育した。

10月以降の降水量は例年に比べ増加している。なお、ラビ米の作付けは10月中旬から南部の州で開始された。

USDAによれば、モンスーンの十分な降雨によるラビ米の作付面積の上方修正により生産量は前月予測から1.0百万トン上方修正され、対前年度比1.2%減の115.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、生産量の上方修正から0.2百万トン上方修正され、対前年度比9.1%増の12.0百万トンと、6年連続で世界第1位の輸出国となる見込み。

インド食料公社によれば、前年度が豊作となったことから、11月時点の政府備蓄量は23.1百万トンと10月1日時点の備蓄必要量(10.3百万トン)を大きく上回っている。

米—米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.7	7.1	6.0	▲ 0.0	▲ 16.2
消費量	4.3	4.6	4.2	-	▲ 9.2
輸出量	2.8	3.0	3.0	-	1.7
輸入量	0.9	0.9	0.9	-	2.2
期末在庫量	0.9	1.4	1.2	▲ 0.0	▲ 18.3
期末在庫率	13.2%	18.8%	16.2%	▲ 0.3	▲ 2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.96	1.18	1.00	-	▲ 15.3
単収(もみt/ha)	8.41	8.62	8.51	▲ 0.03	▲ 1.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)

米—インド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	112.8	116.4	115.0 (115.0)	1.0	▲ 1.2
消費量	98.7	100.0	102.0 (102.4)	▲ 0.1	2.0
輸出量	12.0	11.0	12.0 (11.2)	0.2	9.1
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	22.6	28.0	29.0 (29.5)	2.7	3.6
期末在庫率	20.4%	25.2%	25.5% (26.0%)	2.4	0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	42.90	44.50	43.50 (43.25)	0.50	▲ 2.2
単収(もみt/ha)	3.94	3.92	3.97 (2.66)	▲ 0.01	1.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)

IGC 「Grain Market Report (24 October 2019)」 (単収は精米t/ha)

<ベトナム>

【生育・生産動向】現地情報によれば、2018/19年度の夏作は収穫期を迎えている。夏秋作は収穫済みとなっている。メコンデルタのみの秋冬作は、登熟期から収穫期を迎えている。メコンデルタでは米からエビ養殖等への転用政策が進んでいるため、作付面積が減少している。

なお、USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度の生産量は、対前年度比1.4%増の28.3百万トンの見込みで前月予測から変わらず。

【貿易情報・その他】2019年10月のインディカ精米（碎米5%）の輸出価格は、343ドル/トンで、前年同月（428ドル/トン）と比べ低水準。なお、同年1～10月の輸出量は、5.5百万トンと対前年同期比（5.2百万トン）で4.4%増となっている。前年度と比較して、かつての主要輸出先であった中国、インドネシア向けが輸入需要の減退から8割減となっているものの、フィリピン、コートジボワール、香港向けの輸出が2.6倍と大きく伸びている。

<タイ>

【生育・生産動向】現地情報によれば、本年6月から7月に干ばつ被害が深刻であった北東部や北部では、8月以降まとまった降雨があった。北東部、北部では登熟期から収穫期を迎えている。なお、北東部では、干ばつに加え、9月上旬のサイクロンによる洪水被害もあった。

なお、USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度の生産量は、対前年度比0.8%増の20.5百万トンの見込みで前月予測から変わらず。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、特にアフリカ市場において価格競争力がない状態が継続すること及びバーツ高から前月予測から0.5百万トン下方修正され、対前年度比3.7%増の8.5百万トンの見込み。

2019年1～9月の輸出量は、ベトナム、インド、中国との競争激化、バーツ高等により、前年同期比28.1%減の5.9百万トンとなった。主な輸出先は、ベナン（99.8万トン）、南アフリカ（53.6万トン）、米国（41.6万トン）である。

11月19日時点のタイ産米（100%2等）の輸出価格は438ドル/トンで、依然としてベトナム産より2割程度割高であることから新たな引き合いがなく、需要が低迷している。

米-ベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.7	27.9	28.3 (29.3)	-	1.4
消費量	21.5	21.5	21.6 (22.9)	▲ 0.3	0.5
輸出量	6.6	6.7	6.8 (6.6)	0.2	0.7
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.0	1.2	1.5 (3.6)	▲ 0.1	30.2
期末在庫率	3.7%	4.1%	5.3% (12.2%)	▲ 0.1	1.2

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.65	7.67	7.67 (7.65)	-	-
単収(もみt/ha)	5.79	5.83	5.91 (3.82)	-	1.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)
IGC 「Grain Market Report (24 October 2019)」 (単収は精米t/ha)

米-タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.6	20.3	20.5 (19.8)	-	0.8
消費量	11.0	11.7	11.4 (10.9)	0.2	▲ 2.6
輸出量	11.1	8.2	8.5 (9.4)	▲ 0.5	3.7
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-
期末在庫量	3.0	3.7	4.6 (4.0)	0.3	23.0
期末在庫率	13.6%	18.6%	22.9% (19.6%)	1.8	4.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.76	10.83	10.90 (10.80)	-	0.6
単収(もみt/ha)	2.90	2.85	2.85 (1.83)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)
IGC 「Grain Market Report (24 October 2019)」 (単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生育・生産動向】中国中央气象台によれば、11月上旬現在、2019/20年度の二期作晩稲は、福建、江西、広東省等で乳熟期から成熟期に入り、その他の地域では収穫済みとなっている。一期作稲は、浙江省等一部地域で成熟期に入り、ジャポニカ米主産地の東北地方を含む、その他の地域では収穫済みとなっている。10月の天候は良好で、収穫作業等を助けた。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、大豆への作付転換政策の影響で収穫面積及び単収ともに減少することから、対前年度比1.7%減の146.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、対前年度比19.1%増の3.3百万トンの見込み。これは、政府備蓄在庫の古米が含まれることから特に中粒種の輸出価格が米国や豪州に比べ約半額となっていること、豪州等の生産減を背景に、価格を重視するアフリカや中東の輸入国にとって魅力的な選択肢となっているためである。この結果、米国の従来輸出市場であったトルコやヨルダン、リビアに加え、米領プエルトリコなどへも進出している。

一方、輸入量は国内在庫の積み上がりから輸入需要が低迷しているため前月予測から0.6百万トン下方修正され、対前年度比10.7%減の2.5百万トンの見通し。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」（10月分）によれば、早期インディカ、晩期インディカ、一期作ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれ3,960元/トン、4,280元/トン、4,020元/トン。10月は国慶節(建国記念日)の長期休暇の消費量の増加によりインディカ米、ジャポニカ米価格ともに前月に比べ上昇した。

米-中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	148.9	148.5	146.0 (146.5)	-	▲ 1.7
消費量	142.5	143.0	143.0 (143.5)	-	0.0
輸 出 量	1.4	2.8	3.3 (3.6)	-	19.1
輸 入 量	5.5	2.8	2.5 (3.0)	▲ 0.6	▲ 10.7
期末在庫量	109.0	114.6	116.8 (113.6)	▲ 1.1	1.9
期末在庫率	75.8%	78.6%	79.8% (77.2%)	▲ 0.7	1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.75	30.19	30.00 (29.90)	-	▲ 0.6
単収(もみt/ha)	6.92	7.03	6.95 (4.90)	-	▲ 1.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)
IGC 「Grain Market Report (24 October 2019)」 (単収は精米t/ha)

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・インド、カナダ等で下方修正され、前月から下方修正された。

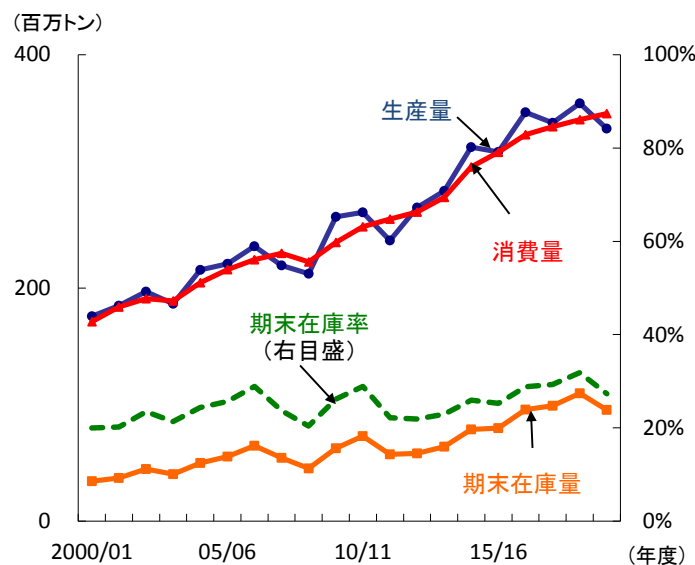
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・中国等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・アルゼンチン等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2019.11.8）をもとに農林水産省で作成。

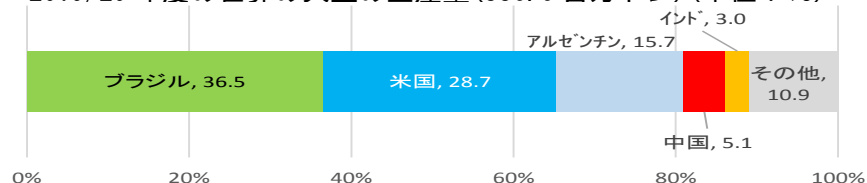
◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

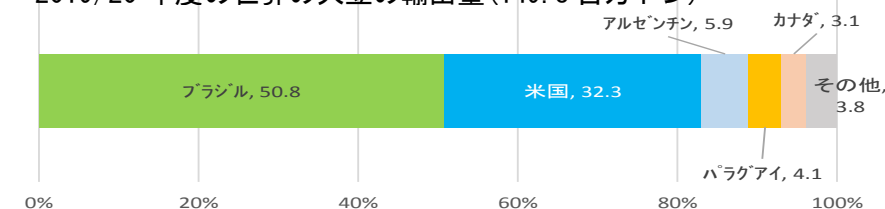
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	341.6	358.2	336.6	▲ 2.4	▲ 6.0
消費量	338.3	344.2	349.6	▲ 2.7	1.6
うち搾油用	294.9	298.6	302.7	▲ 2.5	1.4
輸 出 量	153.1	149.1	149.8	0.4	0.4
輸 入 量	153.3	145.7	148.5	0.4	1.9
期末在庫量	99.1	109.7	95.4	0.2	▲ 13.0
期末在庫率	29.3%	31.9%	27.3%	0.3	▲ 4.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 November 2019)

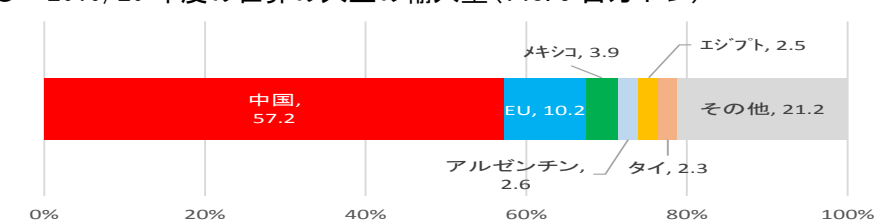
○ 2019/20 年度の世界の大豆の生産量 (336.6 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸出量 (149.8 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸入量 (148.5 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省 (USDA) によれば、2019/20 年度の生産量は、前月予測から変更はなく、96.6 百万トンの見込み。

「Crop Progress」(2019.11.18)によれば、中西部での降雨により作付けが遅れたが、霜害の影響を受けやすい大豆の収穫を優先的に行ったとみられることから、11月17日時点の主要18州における収穫進捗率は、91%と前年度91%及び過去5年平均95%に追いついた。ただ、未収穫の地域では、霜害による単収の低下の懸念も生じている。

【貿易情報・その他】2019/20 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 48.3 百万トンの見込み。

期末在庫量は、消費量の下方修正から前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、12.9 百万トンの見込み。輸出検証高 (2019年1月3日～10月31日) は、38.6 百万トンである。(下表参照)

輸出価格については、今後の米中通商協議の進展の不透明感から横ばいで推移している。

(輸出価格は P19 のアルゼンチンの項の図参照)

米国の大豆輸出先国別輸出量 (輸出検証高) (万トン)

	国名	輸出検証高		
		2019年累計	9月	10月
1	中国	1543.0	289.1	149.5
2	メキシコ	412.1	45.5	51.5
3	エジプト	247.1	17.5	7.4
	その他	1660.5	181.7	326.2
	計	3,862.7	533.8	534.6

注1: 10月の輸出検証高は、10月10、17、24及び31日の合計

注2: 累積輸出検証高は、2019年1月3日～10月31日の合計

出典: USDA Federal Grain Inspection Service

大豆－米国

(単位: 百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.1	120.5	96.6	-	▲ 19.8
消費量	58.9	60.4	60.8	▲ 0.4	0.6
うち搾油用	55.9	56.9	57.3	▲ 0.4	0.6
輸 出 量	58.1	47.6	48.3	-	1.6
輸 入 量	0.6	0.4	0.5	-	42.1
期末在庫量	11.9	24.9	12.9	0.4	▲ 48.0
期末在庫率	10.2%	23.0%	11.8%	0.4	▲ 11.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.24	35.45	30.61	-	▲ 13.7
単収(t/ha)	3.31	3.40	3.16	0.01	▲ 7.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (8 November 2019)

写真: アーカンソー州の大豆の収穫 急ピッチで収穫が行われている (10月21日撮影)



< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の123.0百万トンの見込み。11月上旬から中旬にかけて降雨に恵まれ、主産地の中西部のマットグROSS州の作付進捗率は11月14日時点で97%と過去5年平均(92%)より進展している。南部のパラナ州では作付進捗率は、11月11日時点で89%と終盤を迎えているが、リオグランデ・ド・スル州では、作付進捗率は、11月14日時点で28%と平年(36%)より遅れている。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、46.5百万トンの見込み。報道によれば、ブラジル国内のバイオディーゼルの混合率義務が、来年11%から12%に、2023年までに15%に引き上げられる方針であることから、国内需要は伸びる見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、アルゼンチンの輸出の上方修正にとともに、前月予測から0.5百万トン下方修正され、76.0百万トンの見込み。世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第1位の輸出国となる見込み。ブラジル貿易統計によると、2019年1月～10月の輸出量は、65.4百万トンで、中国向けが最も多く、76.6%を占めている。

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2019/20年度の大豆の作付けは、2019年9月以降、開始。

2020年2月以降に収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培予定。

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2019/20年度	2019年												2020年									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
夏とうもろこし	リオグランデ・スル州等						作付 4.1(百万ha)						収穫 26.3(百万t)									→ 収穫夏冬計 98.4百万t
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 17.5百万ha ←												作付 13.4(百万ha)									→ 収穫 72.1(百万t)
大豆	マトグROSS州、パラナ州等						作付 36.7(百万ha)						収穫 120.9(百万t)									大豆収穫後一部圃場で冬とうもろこしを栽培

資料: CONAB 穀物レポート(2019.11.13)

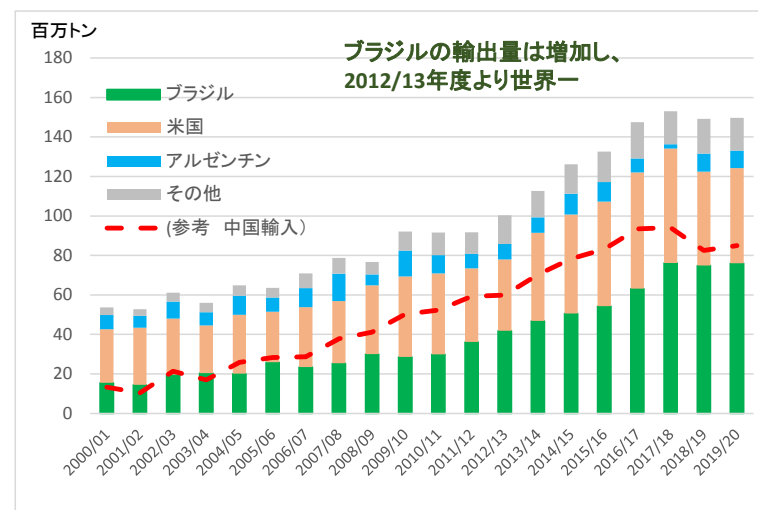
大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	122.0	117.0	123.0 (124.0)	-	5.1	
消費量	46.5	45.6	46.5 (…)	-	2.0	
うち搾油用	44.2	43.0	43.8 (45.0)	-	1.7	
輸出量	76.1	74.9	76.0 (76.0)	▲ 0.5	1.5	
輸入量	0.2	0.1	0.2 (…)	-	42.9	
期末在庫量	32.7	29.4	30.0 (…)	1.0	2.2	
期末在庫率	26.7%	24.4%	24.5% (…)	0.9	0.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	35.15	35.90	36.90 (37.00)	-	2.8	
単収(t/ha)	3.47	3.26	3.33 (3.35)	-	2.1	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(11 October 2019)

図: 主要大豆輸出国の輸出量の推移



資料: USDA「PS&D」(2019.11.8)をもとに農林水産省で作成。

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、降雪等による収穫ロスにより、単収が低下すると見られることから、前月予測から0.5百万トン下方修正され、6.0百万トンの見込み。USDA「World Agricultural Production」(2019.11.8)によれば、9月末に、大豆生産の23%を占めるマニトバ州で降雪があったほか、主産地（マニトバ州、オンタリオ州、ケベック州）における10月末の零下となる低温により、収穫が遅れている。特に、マニトバ州では、10月29日時点の収穫率が、64%と過去3年平均94%より遅れている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、中国向け輸出が好調であることから、前月予測から0.1百万トン上方修正され、4.7百万トンの見込み。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.7	7.3	6.0 (6.5)	▲ 0.5	▲ 17.4
消費量	2.9	3.0	2.7 (2.4)	▲ 0.2	▲ 9.5
うち搾油用	1.9	2.1	1.9 (1.9)	▲ 0.2	▲ 8.5
輸 出 量	4.9	5.3	4.7 (4.7)	0.1	▲ 10.6
輸 入 量	0.5	1.2	0.9 (0.4)	0.1	▲ 23.2
期末在庫量	0.6	0.8	0.4 (0.5)	▲ 0.3	▲ 58.4
期末在庫率	8.1%	10.2%	4.7% (6.3%)	▲ 3.9	▲ 5.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.94	2.54	2.30 (2.29)	0.10	▲ 9.4
単収(t/ha)	2.63	2.86	2.61 (2.83)	▲ 0.22	▲ 8.7

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(8 November 2019)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(19 November 2019)

写真：マニトバ州での積雪の中の大豆の収穫
降雪があり、その後の冷え込みから厚い氷が張った中、収穫。(10月30日撮影)
※収穫時期の積雪については小麦のカナダの項(P3)も参照



< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、53.0百万トンの見込み。

「ブエノスアイレス穀物取引所週報」(2019.11.21)によれば、2019/20年度の作付けに関して、輸出税の引き上げ懸念により栽培に費用のかかるとうもろこしから大豆に作付けがシフトしたため、作付予定面積は17.7百万ヘクタールと前週(17.6百万ヘクタール)より上方修正され、作付進捗率は31.3%となっている。特に、北部の作付進捗率が高い。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は中国向け輸出が好調なことから、前月予測から0.8百万トン上方修正され8.8百万トンの見込み。

なお、アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

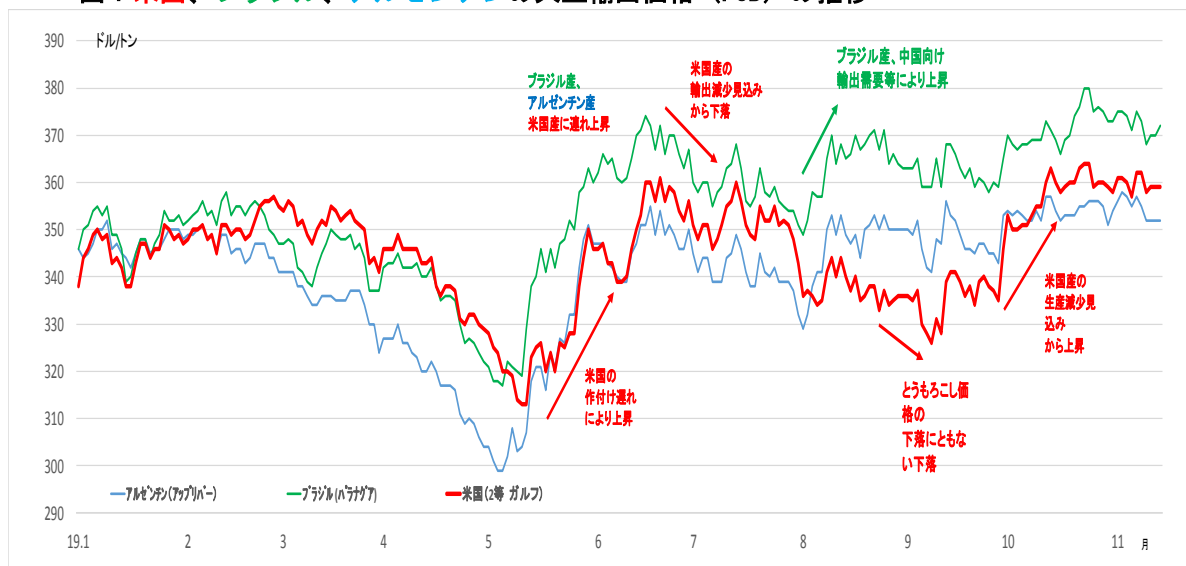
大豆—アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	37.8	55.3	53.0 (53.0)	-	▲ 4.2
消費量	43.6	47.5	51.1 (…)	▲ 0.0	7.7
うち搾油用	36.9	40.6	44.0 (…)	-	8.5
輸出量	2.1	9.1	8.8 (…)	0.8	▲ 3.3
輸入量	4.7	6.4	3.9 (…)	-	▲ 39.2
期末在庫量	23.7	28.9	25.9 (…)	▲ 1.1	▲ 10.4
期末在庫率	51.9%	51.1%	43.2% (…)	▲ 0.02	▲ 7.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.30	16.60	17.50 (17.30)	-	5.4
単収(t/ha)	2.32	3.33	3.03 (3.06)	-	▲ 9.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(8 November 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(11 October 2019)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< 中国 >

【生産・生育状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測から変更はなく、17.1百万トンの見込み。10月で国内の収穫作業は終了し、黒竜江省はじめ主産地である東北地方の大豆が市場に流通しはじめた。

中国では、米やとうもろこしの在庫の積み上がりの回避や、大豆の輸入依存率を引き下げるため、作付けを米やとうもろこしから大豆に転換し、大豆の生産振興に力を入れている。中国の大豆生産量は、直近5年間で生産量は増加している。

【需給動向】2019/20年度の消費量は、2018年に発生したアフリカ豚コレラの影響から中国国内の飼料用需要が低調なため、前月予測から0.5百万トン下方修正され、102.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸入量は前月予測から変更はなく85.0百万トンの見込み。

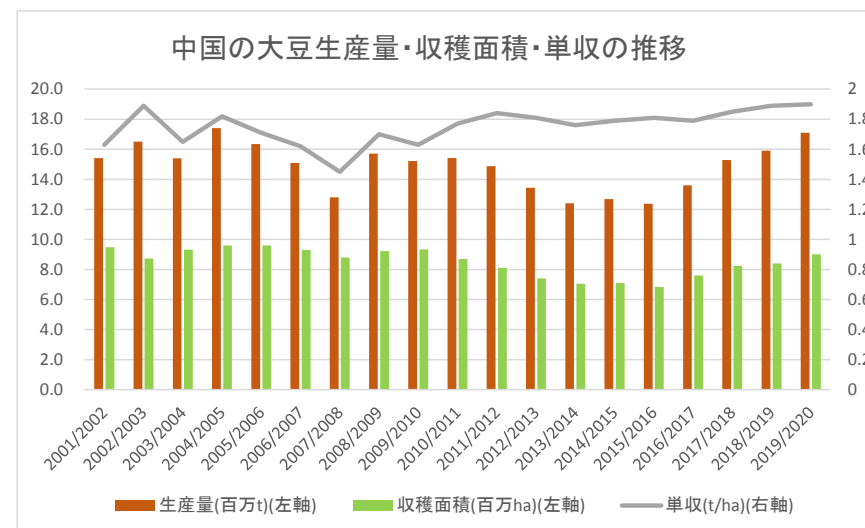
中国の貿易統計によれば、2019年9月の輸入量は8.2百万トンと、前年同月と比べ0.2百万トン増加した。なお、1～9月の累計輸入量は、64.6百万トンであり、内訳は、ブラジル産45.2百万トン（70%）、米国産10.2百万トン（16%）である。

大豆—中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	15.3	15.9	17.1 (15.3)	-	7.5	
消費量	106.3	102.0	102.2 (…)	▲ 0.5	0.2	
うち搾油用	90.0	85.0	84.5 (…)	▲ 0.5	▲ 0.6	
輸 出 量	0.13	0.12	0.13 (…)	-	8.3	
輸 入 量	94.1	82.5	85.0 (…)	-	3.0	
期末在庫量	23.1	19.4	19.2 (…)	0.1	▲ 1.2	
期末在庫率	21.7%	19.0%	18.7% (…)	0.2	▲ 0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	8.25	8.40	9.00 (7.90)	-	7.1	
単収(t/ha)	1.85	1.89	1.90 (1.94)	-	0.5	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2019)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(11 October 2019)



資料：USDA「PS&D」(2019.11.8)をもとに農林水産省で作成。

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2019/20年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆
米国	19年6月～20年5月	19年9月～20年8月	19年8月～20年7月	19年9月～20年8月
カナダ	19年8月～20年7月			19年8月～20年7月
豪州	19年10月～20年9月		20年3月～21年2月	
EU	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		
中国	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月
ロシア	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		19年9月～20年8月
ブラジル		20年3月～21年2月	20年4月～21年3月	19年10月～20年9月
アルゼンチン	19年12月～20年11月	20年3月～21年2月		19年10月～20年9月
タイ			20年1月～12月	
インド	19年4月～20年3月		19年10月～20年9月	
ベトナム			20年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2019/20年度は、米国の小麦では2019年6月～2020年5月、ブラジルのとうもろこしでは2020年3月～2021年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2019年11月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-3502-8111 (内線 3805)
--